

常光寺々報

2017年

永代経法要

五月二十一日(日)

朝十時半〜十二時

昼一時半〜四時

武蔵野大学 学院長

講師 田中 教照 先生

『人生の問い』

——生きるということ——

光輪法座 六月三日 昼一時半〜

法話

住職

光輪会追悼会・総会

六月二十三日(金)朝十時〜

女性のための仏教法座

六月二十七日(火)昼一時〜

田中先生には、今年もご出講のご縁をいただきました。二年ぶりです。この度は朝・昼二席お願いしていただきますので、早朝、川越市からお出でください。

お昼にはお齋(トキ)が出ます。皆さんと一緒にいただく食事はきつとおいしいですよ。どうぞ、一日ゆつくりお参りご聴聞ください。

永代経法要は、仏教の中でも宗派によってその意味が大きく違っています。一般には、亡くなった方に永代お経を読んであげることとされているようですが、浄土真宗では、親鸞聖人が真実のお経とお示しくくださった『大無量寿経』が末代までも読み継がれ、お念仏が永代相続されることを願って、門信徒の皆さんと共にお勤めする法要を、永代経法要と呼んでいます。

ご本山へのご懇志報告

ご本山では昨秋から専如門主の伝灯奉告法要がお勤まりになっていきます。それで、皆さまにはご本山懇志をお願いいたしましたところ292名の方から総額158万円のご懇志をいただきました。ご協力誠にありがとうございました。

ご本山からの割当て額は225万円でしたので、不足分は門徒講から補って進納させていただきました。よろしくご理解ください。感謝

ご本山参拝旅行

ご本山の伝灯奉告法要に、三浦組は五月十日に参拝することになっています。そのため、今年は当寺の永代経法要が例年より遅くなっています。よろしくご理解ご協力をお願いします。

仏法を聞くということ

人間とは何ぞや、人生とは何ぞや、それを問うのが仏教です。

私たちはこの世に生まれてくるとき、あらかじめ何一つ知らされないまま生まれてきました。

何処からやって来たのか、

何処へ行くのか、

この私は一体何者なのか、

そもそもこの世はどんな所か、

こんな大事なことを何も知らされないまま生まれてきて、しかも、何も知らずともせずに死んでしまうのでしょうか。

お釈迦さまは幼少の頃から、このような人生のもっとも本質的・根源的な問いをもたれて、独り、もの思いに耽ることが多かったと言います。

& & &

私たちもこんな人生の一大事を聞くためには、それなりの覚悟というか、

心の準備が必要でしょう。雑誌を読んだり、テレビを聴いたりするような訳にはいきません。

ご本典の総序には、その冒頭に「ひそかにおもんみれば、難思の弘誓は・・・」とあります。また白骨の御文章も「それ、人間の浮生なる相をつらつら案ずるに、おおよそはかなきものは・・・」とあります。

仏法を聞くのは、世間の話を聞くのではなく、永遠のいのちに思いをめぐらすことなので、へりくだった耳と、よくよく考えてみる心の用意が必要なのでしよう。

榎本栄一さんは、「この耳は不思議な耳で、テレビの言葉は聞こえにくい、何万劫年かなたからの宇宙のささやきが、人身受け難し聞こえてくる」と言われています。

老いと病を抱えた困難な生活の中に

も、永遠のかなたから、人間に生まれたことの深い喜びが聞こえてくると言われているのです。きっと仏法を聞けばそんな不思議な耳が開かれるのでしよう。

& & &

また相田みつおさんの詩には、こんながあります。

損か得か 人間のものさし

うそかまことか 仏のものさし

仏法を聞くのは損得の話を聴くのではなく、役に立つ話、為になる話を聞くのでもないでしょう。うそかまことかの話を聞くのです。

仏さまのまことに出遇えば、わが身のうそ（嘘偽）が見えてまいります。

仏法を聞くことによって心が磨かれ、自分に値打ちが出てくるのかというと、そうではなく、逆に値打ちのない自己というものが知らされてくるのです。